

# 川俣高校生が視た<sup>み</sup>議会



川俣高校では、18歳選挙権のための授業として「主権者教育」を行っています。6月には、3年の選択科目「政治経済」公民科の授業において、生徒10人が、議会定例会をライブ配信により傍聴しました。議会を視た川俣高校生から、次のような感想が寄せられました。

質問と回答のひとつひとつがばらばらで、一貫性がないように感じた。質問する側も指摘したうえで改善策を提案してほしい。



菅野 龍佑さん

一般質問では、次第にいろんな切り口で細かい質問があり、町側のひとりひとりが回答できず、全体とするとばらばらのことを話し合っているように感じました。町側には「まちをこうしたい」という姿勢が大切だと思います。

また、質問者側にも、問題点を指摘したうえでその人なりの対策を示してほしいです。

「検討中です」「・・・のあとに行きます」など町の回答に繰り返されていた。実際に行動を起こして、さまざまな対策をとってほしいと思った。



小林 理央さん

町の回答で繰り返される言葉から、消極的な姿勢を感じた。具体的にいつまでに検討し、いつになったらできるのか聞きたかった。まちの問題で関心があるのは少子高齢化です。シャッター街の解消が人口減少対策につながるのではないかと考えています。

思っていたよりも、一般的な話題や、関心ごとを話し合っているのではないかと感じた。

初めて議会を傍聴しましたが、繰り返しや、どのような行動を引き出したのかわからない意見交換がありました。質問しても、あまり意味がないと思うものや、回答しづらいだろうと感じる内容のものもありました。もっと調べて、突っ込んだ議論をしてほしいです。



佐藤 香澄さん

町には様々な問題があり、町全体で、そして自分でも考えていかなければならないと感じた。

両親も川高卒業生です。生徒が減ってこれからどうなるんだろうと話合っていました。質問でも川高が話題になり、関心を持って、しっかり聴くことができました。これから生活をしていく中で、自分もまちのことについてしっかりと考えていきたいと思いました。



浦住 瑠衣さん

18歳で選挙権。どんな点で候補者を選ぶといいか、考えるきっかけになりました。

公民科の授業で学んでいますが、自分の選挙権をどう使ったらいいか考えています。議員の方のどのような点を評価して、だれに投票するのがいいのか、実際に議会を傍聴して、ますます考えるようになりました。



佐藤 沙耶さん

議会で話し合われている内容が、どれだけ反映されて、どれだけ町の役に立っているのか気になった。

議会で話し合われている内容は、確かに復興やまちの活性化についてのことですが、話し合いの結果どのような影響が生まれるのだろうと思いました。自分たちでも少子高齢化の対策のためにできることがないか話し合っています。シルク、川俣シャモ、コスキン、まちのイベントなどを盛り上げて、小さなことからでも活性化できたらと思います。



菅野 龍司さん

## 皆さんの関心に応え、信頼される議会運営に努めます

町の若者、特に川俣高校生に議会中継を見ていただき、大変うれしく思います。また、今回は、主権者として、町の課題に関心を持ち、率直な意見を寄せていただき、感謝いたします。我々まちの代表として、真摯に受け止めさせていただきます。

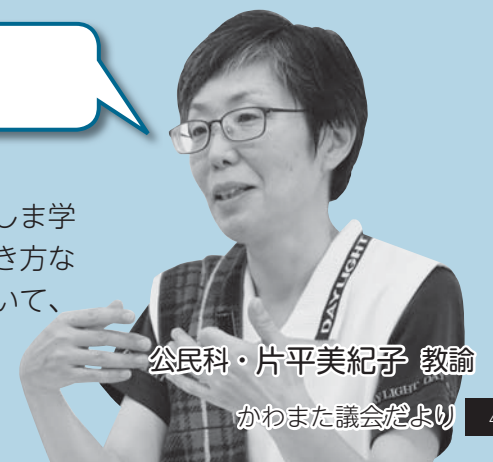
自分で考え、行動する。まちの若者のこれからの成長に期待します。

町議会議長 高橋 道也

## 川高生もイチ主権者として育てています！

川俣高校の主権者教育を担当しています。

昨年は、模擬投票の実践や、東京大学大学院の特任研究員で「ふくしま学びのネットワーク事務局長」の前川直哉氏を招いて、模擬請願書の書き方などについての授業を行ってきました。今回は、より身近な町議会について、インターネット中継で議会を傍聴しました。



公民科・片平美紀子 教諭